

今後の進め方について

木津川市環の拠点創出事業活性化検討会
平成27年6月16日－第2回検討会

京都府「お茶の京都」構想（案） ～抜粋～

【構想の趣旨】

*日本茶文化を創造し、全国に普及させてきた「宇治茶」や茶畑景観等の山城地域の価値を再認識し、さらに磨きをかけ、世界に向け発信することにより、多くの人々が訪れる大交流圏を創出し、日本の茶文化の一大拠点にする。

*対象地域は、原則として、世界文化遺産登録を目指すなど、宇治茶生産の基盤、美しい個性的な景観を有する山城地域一帯（12市町村のエリア）とする。

【めざす姿】

*宇治茶生産の長い歴史が生み出した美しい景観が、維持・保全・継承され、世界文化遺産に登録されていること。

*お茶をテーマに、地域の人・資源を総動員してネットワーク化を進め、発信することにより、多くの人々が地域の価値や魅力を感じ、長時間滞在できる大交流圏が形成されていること。

*「宇治茶」が世界に通じるブランドとして展開され、宇治茶の市場価格がこれまで以上に高まるとともに、産業の新たな展開や生産性の向上、雇用創出などが図られていること。

*これらのことにより、住民自らが、宇治茶や茶畑景観などの歴史的・文化的な価値を実感し、さらに磨きをかけ、誇りとしていること。

【目標年次】

新名神高速道路城陽～八幡の開通（平成28年度）を踏まえ、**平成29年度を目標年次**として取組を進める。

なお、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年度や新名神高速道路が全面開通する平成35年度を念頭においた展開にも留意する。

【具体的施策の展開方向】

1 宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承

茶畑等の景観を維持・継承し、宇治茶の価値の再発見・向上を図るため、日本遺産「『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城」をさらにブラッシュアップし、世界文化遺産登録に向けた府民運動を展開するとともに、子ども達をはじめ様々な層に応じたお茶を飲む文化の普及・拡大を進める。

2 お茶の文化・魅力を発信する交流エリアの創出、ネットワーク化

お茶をテーマにした、戦略的な交流拠点づくりやそのネットワーク可を図ることにより、多くの人々が訪れ、交流することで経済的な波及効果を生む仕組みを構築

3 お茶産業のイノベーション創出

茶業研究所を核に、世界に通じる「宇治茶」の新たな価値を創出するとともに、お茶の機能性を引き出した新製品の開発やお茶を軸とした新たな産業展開を図る。

また、茶園等の基盤整備や効率化によるコスト削減により、生産性、収益性を高めるとともに、「宇治茶」ブランドの強化、新たなブランド展開を図る。

4 お茶の文化、魅力の効果的なプロモーション・観光誘客の促進


磨きかけた宇治茶の価値・魅力を世界に向け発信し、観光誘客の推進を図ることで、多くの人々が訪れ、魅力を感じる大交流圏を形成する。

「お茶の京都」ワークショップ(第1回)

(キーワード)

- ◇提案できた内容について、「共有」の次に「共感」が必要
- ◇自分がやりたいと思わないことには「共感」は生まれない
- ◇やりたい事・やらなければならない事があるが、「楽しめない事」があれば長続きしない
- ◇アイデアを企画にする 次を楽しめるかどうかを確認する →進めていく
- ◇意見として出てきたものは、いきなり否定しない(できない理由を並べない)
納得できなくても「なるほど」と一旦意見を飲み込む
- ◇みんなで世界観を共有・共感する
どういう地域でありたいか・やりたいか → みんなでアイデアを出す
- ◇事業を進めるには主体が必要、一体その事業は誰がやるのか明確にする
- ◇目的を見失わないこと
- ◇具体的にどうしていくのか、何ができるのか
- ◇地域活性：どこにでもあるものであっても、アイデアを入れて、使いこなす
- ◇計画の拠点に関する主体がいなくても「できることの仕組み」の検討
- ◇プレーヤーになり得る人を集めて、具体的に意見を出す

2つの事業について

環の拠点創出事業(市)		お茶の京都(府)	
JA倉庫をシンボリックとした他施設との複合的利用	(拠点について)	戦略的な交流拠点づくり	
多彩な関係者による多種多様な事業展開	(運営内容について)	?	「お茶の京都」 ワークショップ
? 本検討会で検討	(運営主体について)	?	+ アドバイザーの活用
			
共通項の中で相互的な検討「できることから楽しむ」			
最終目標:「人が日常的に集える」拠点施設運営			

目的の再確認

環の拠点創出事業のコンセプト



地域との交流の環（わ）

- ①「本物のお茶」の発信
- ②地域特産物の提供
- ③市内の観光ルート拠点
- ④市外との広域的な観光連携



サイクリングの環（わ）

- ①サイクリストの誘客
- ②サイクリストの観光
- ③休憩所などの設置
- ④サイクリングの拠点



健康づくりの環（わ）

- ①地域住民の楽しみ
- ②高齢者の交流
- ③各種サークルの紹介
- ④老人クラブ等の活動



地域振興・サイクリスト等の誘客に向けて

- ①茶問屋街において、既存の地域資源とニーズの融合を図り、サイクリストにターゲットを絞った拠点を整備
- ②広域のサイクリングルートの拠点として活用
- ③サイクリスト等を誘客するための拠点として活用

事業の具体化へ

【テーマ】

①具体的に誰が主体となってやるのか



②プレイヤーになり得る人の集結



③「共有」できる場の設定



④アイデアを出し「共感」できる場の設定

「お茶の京都」ワークショップ + アドバイザーの活用

※参考 木津川市環の拠点創出事業計画書から

(提案) 商工会や茶業組合による事務局を核とした拠点施設利用団体によって運営とりまとめ役組織を構成し、多彩な関係者(プレイヤー)による多種多様な事業展開を実施

全般的な拠点施設に関すること	○拠点施設のPR活動	○各団体のイベント会場としての活用
地元地域に関すること	○各種サークルの紹介と交流活動	○老人クラブ等の地域活動
農業に関すること	○地元野菜・農産物の朝市販売 ○各種農林生産組合の活用	○規格外農産物等の低価格販売
商工に関すること	○地域特産品の開発・販売・展示 ○拠点カフェの設置	○弁当(地域特産品使用)の販売
観光に関すること	○観光モデルコースの検討 ○スタンプラリーの実施	○観光マップの作成 ○木津川市マスコットキャラクター(いづみ姫)の活用
茶業に関すること	○お茶の淹れ方講座の実施	○お茶の販売・提供サービス ○茶問屋・お茶の歴史等の紙芝居
サイクリングに関すること	○サイクリスト講習会の実施 ○修理店舗の案内 ○サイクリングマナーの案内・発信	○ツーリングイベント等の企画 ○サイクリングコースの新設・案内 ○電動アシスト付き自転車レンタル